

追 補(概要版)

本白書における 2005 年の合計特殊出生率は概数となっているが、本白書発刊時に確定数が公表されたので、以下のとおり、確定数に置き換えた記述も掲載する。

概数と確定数では、合計特殊出生率の算定に用いる女子人口が違っており、前者は平成 12 年国勢調査に基づく推計人口、後者は平成 17 年国勢調査の結果を用いている。また、都道府県別の合計特殊出生率の算定に用いた人口は、概数では外国人を含む総人口、確定数では日本人人口であり、日本人人口は総人口より少ないため、全ての都道府県の確定数は概数より上昇している。

なお、詳細は「平成 17 年人口動態統計(確定数)の概況」に記載されており、厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei05/index.html>) にも掲載されている。

箇所	確定数	概数
P4 5行目～	前年の 1.29 をさらに 0.03 ポイント下回る 1.26 となり、過去最低を記録した。2005 年の 1.26 という数値は、	前年の 1.29 をさらに 0.04 ポイント下回る 1.25 となり、過去最低を記録した。2005 年の 1.25 という数値は、
P4 第1 - 1 - 1図	(2005 年の合計特殊出生率)1.26	(2005 年の合計特殊出生率)1.25
P6 2行目～	2005(平成 17)年の全国の合計特殊出生率は 1.26 であるが、合計特殊出生率が最も高い都道府県は沖縄県(1.72)であり、最も低いところは、東京都(1.00)である。2005 年と 2004(平成 16)年を比較すると、2004 年に比べて出生率が上昇した団体は、22 団体であった。	2005(平成 17)年の全国の合計特殊出生率は 1.25 であるが、合計特殊出生率が最も高い都道府県は沖縄県(1.71)であり、最も低いところは、再び1を下回った東京都(0.98)である。2005 年と 2004(平成 16)年を比較すると、2004 年に比べて出生率が上昇した団体は、福井県のみであり、他の団体はすべて前年の数値を下回った。
P7 第1 - 1 - 16 図	別図参照	
P31 コラム最終行	日本は 1.26	日本は 1.25
P32 第1 - 補 - 6 図	(日本の合計特殊出生率)1.26	(日本の合計特殊出生率)1.25